

履修証明プログラムの概要

開設部局等名 (学部・大学院・各センター)	日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科					
実施責任者 (職・氏名)	研究科長・西片久美子					
プログラムの名称	保健・医療・福祉従事者のための災害の理解と支援					
プログラムの目的及び内容 1) 目的 2) 内容 (編成方針等) 3) 修了後に身に付く能力 4) 履修証明を行う社会的意義	1) 災害に対する知識を深め、災害時に必要な基礎的技術を修得する。 2) 大学院修士課程で開講している災害看護学特講に加え、演習を組み合わせで行う。 3) 地域や職場において、保健・医療・福祉従事者が防災・減災への取り組みや発災時に効果的な対応をすることができる。 4) 最新の知見に基づき、災害に対する理解を深め、知識と支援方法を普及していくことに役立つ。					
履修資格	大学院修士課程の入学資格と同じ。 詳細は募集要項を参照のこと。					
定員	10名					
総時間数	60時間					
開設期間	1年間 (4月～翌年3月)					
履修料等	履修料 60,000円 教材費 1,000円 (内訳: 演習時の調理材料費)					
修了要件	2科目計60時間の授業に全て出席し、各科目の試験に合格する (100点満点中の60点以上の評価を得る) こと					
実施体制 ※履修者の履修状況の確認の仕組、修了認定を行う体制、履修者の学籍管理その他教務の実施体制等について記載	履修状況は担当教員が確認する。修了認定は、担当教員の成績評価を研究科教務委員会で審議後、研究科委員会で承認する。学籍管理および教務事務は、学務課教務係が行う。					
開設科目等						
講習又は授業科目名	講習、授業形態	時間数	単位認定		担当教員	備考
			有無	認定単位		
災害看護学特講Ⅰ (災害看護の基礎知識と活動)	講義	22.5	無		尾山とし子	大学院修士課程の授業科目
災害看護学演習	講義・演習	37.5	無		尾山とし子・根本昌宏・山本美紀	
大学院修士課程の授業科目「災害看護学特講Ⅰ (災害看護の基礎知識と活動)」の単位認定 (2単位) を希望する場合は、別途、科目等履修生として入学すること。						

科目名	災害看護学特講 I (災害看護の基礎知識と活動)		選択・必修	選択
担当教員	尾山とし子			
分野	広域看護学	履修証明 プログラム時間	22.5 時間	オフィス アワー
開講時期	前期			

■ 授業の目的

災害に対する知識を深め、災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関わっていることを理解する。そして、災害が人々の健康や生活に与える影響と被災者の健康問題や生活ニーズに関わる看護職者の役割について理解する。

■ 授業の概要

災害および災害看護に必要な基礎的知識を理解し、災害が人々の健康や生活にどのような影響を及ぼすのかを理解する。また、災害サイクルに応じた看護支援活動について、こころのケアなども含めて理解を深める。

回	授業内容及び方法	担当
1	災害・災害看護の歴史	尾山
2	災害・災害看護の定義	尾山
3	災害看護の種類と疾病構造、災害サイクル	尾山
4	災害に関する制度、災害と伝達のしくみ	尾山
5	国内における災害関係各機関の支援体制	尾山
6	個人の備え、災害ボランティア活動	尾山
7	災害時の地域アセスメント、災害時要援護者への支援	尾山
8	災害時の被災者および援助者の心理	尾山
9	災害看護に期待される能力と災害看護の基本姿勢	尾山
10	災害サイクルにおける看護活動	尾山
11	避難所・仮設住宅・復興住宅における看護	尾山
12	災害時における社会資源の活用、地域住民との連携	尾山
13	災害時に必要な技術（トリアージ、応急処置・搬送）	尾山
14	病院における災害看護	尾山
15	災害看護に関連する理論、災害看護の研究の動向と課題	尾山

■ 教材・テキスト

使用しない、必要時資料を配付する。

■ 参考書

適宜紹介する。

■ 成績評価の方法および採点基準

課題レポート100%

■ 準備学習

各回の授業内容について疑問点を調べ、自身の考えを述べられるようにしておくこと。

■ 教員からのメッセージ

東日本大震災から7年、熊本地震や北海道への台風上陸など様々な災害が起こっています。そして、今もなお被災地では、多くの問題を抱えているのが現状です。このことをふまえて、災害時の医療活動やその他の支援活動がどのようにあったら良いのか、共に考えていきましょう。

科目名	災害看護学演習			選択・必修	選択
担当教員	(主) 尾山とし子、山本美紀、根本昌宏				
分野	広域看護学	履修証明 プログラム時間数	37.5 時間	オフィス アワー	尾山、山本、根本 土曜日 12:00～13:00
開講時期	通年				

■ 授業の目的

災害サイクル、災害の場、対象などに合わせた災害看護の実践に必要な知識・技術を地域防災の視点もふまえて理解する。

■ 授業の概要

災害看護に必要な知識・技術（トリアージ、多数傷病者の受け入れ、こころのケア、避難所の立ち上げ・運営、防災・減災教育など）を具体的な演習を通して理解し修得する。

回	授業内容及び方法	担当
1	災害急性期看護と救急看護の違い、災害急性期の医療ニーズと看護ニーズ	尾山
2～3	災害中長期の看護	尾山
4～6	トリアージの理論と実際	尾山
7～9	多数傷病者の受け入れ体制の考え方と実際(机上シミュレーション)	尾山
10～12	避難所立ち上げの考え方と運営方法(机上シミュレーション：避難所運営ゲーム)	尾山 山本 根本
13～21	避難所設営・運営の実際（避難所災害対策本部立ち上げ、避難所レイアウト・ゾーニング、炊き出し、トイレの設置等）	〃
22～24	こころのケアの理論と実際（ロールプレイ）	尾山 山本
25	まとめ	尾山

■ 教材・テキスト

使用しない、必要時資料を配付する。

■ 参考書

適宜紹介する。

■ 成績評価の方法および採点基準

プレゼンテーション20% 演習への参加状況 30% 課題レポート 50%

■ 準備学習

各回の演習内容について、できるだけ調べておくこと。

■ 教員からのメッセージ

災害看護には実践力が必要です。演習を通して災害をイメージして実践力を高めていきましょう。